

すすんで表現し、生き生きと行動する子

河田 祐子

はじめに

遊び的労働を中心とする生活単元学習で、からだを力いっぱい動かし道具も意欲的に使い活躍するS男。しかし、発音が不明瞭で言葉の伝達に手間どり気落ちしてしまう面や、他からの賞賛をささえにして行動する面も見られた。こうしたS男が、友達を中心となって生き生きと活動する中で、自分なりに目的を持って黙々と学習に取り組み、苦手とする表出言語や文字言語の習得にも努め、自己表現する力を少しずつ養い、さらに、友達への配慮もでき始めた経過について述べてみたいと思う。

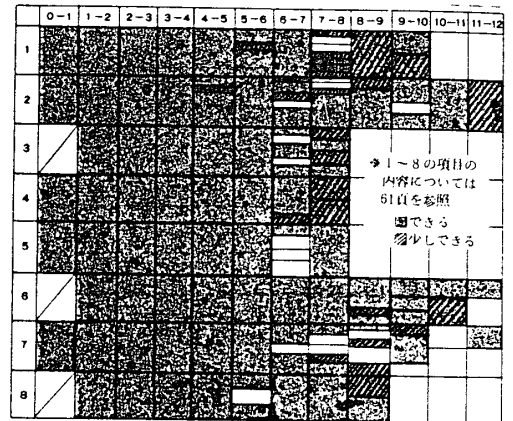
1. プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和52年1月1日生 13歳10か月 中学部2年生 男子
- ・言語障害 脳性小児麻痺後遺症
- ・公立小(心身障害児学級)より本校小学部6年に編入。
編入当時は、口数も少なく内向的だったが、徐々に活発になる。平成元年度本校中学部に入学、現在に至る。
- ・家族は、両親、祖父母、兄、弟の7人

(2) 諸検査等による実態

- ・知能検査 IQ44(田研、田中ビナーH. 1. 10)
- ・発達検査等

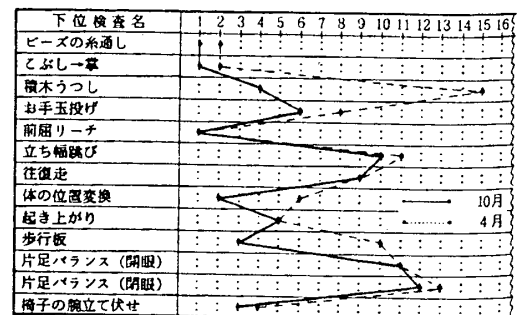


〔図1〕 からだの輪郭表

図1で示すからだの輪郭表では、7歳程度の発達を示し、道具の操作と運動において優れている事が分かる。MSTB評価プロフィール(図2によると)、全体的に微細運動より粗大運動を得意とするが、背筋の弱さが目立つ。このように発達の遅れている面を持っているが、道具操作等、生活経験でカバーしている事が分かる。

(3) 行動特性

- ・道具を使う事が好きで、友達の先頭に立ち活動する。
- ・賞賛を喜び、それを支えに動く面がある。
- ・発音が不明瞭で意志が伝わりにくかったり、自分では日記が書けないので母の書いたものを視写したりしている。



〔図2〕 MSTBプロフィール

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

以上の実態から、自分なりに目標を持って活動し、すすんで自己表現する子を目指して、仮説を次のように設定した。個人目標は、昨年度に引き続いてのテーマだが、今年は特に、自分から進んで行動を起こし、目標に向かって黙々と頑張る姿を目指したい。

個人目標 「すすんで表現し、生き生きと行動する子」

つきたい力
・表現する力や生活意欲
・自分なりの目標を持ち、黙々と頑張る力
・創意工夫しながら最後までやりとげる力
・友達への援助ができる力

からだの個人目標
自分なりの目標に向かって、からだを力いっぱい動かす事を楽しみながら、友達や先生との温かい関わりの中で、生き生きと自己表現していく子

指導仮説
目標に向かって、からだを力いっぱい動かす事は、身体全体の発達につながり、運動感覚の諸機能を高める。また、少しでもはっきりした発音や文字言語の習得は、本児の表現力を向上させ、大きな自信を与える事につながる。また、友達を中心になって活躍したり、様々な道具を使い、物を作り上げたりする事によって得る自信や満足感は次への積極的な言動を生む。その過程の中で、生き生きと行動し、自己表現できる子に近づいていく。

(2) 指導方針

- ・自分なりに目標を持たせ、友達を中心になって活躍させる中で、自信や満足感を持たせる。さらに、賞賛がなくても、黙々と頑張れるような姿を目指していく。
- ・自分の気持ちや考えを、大きな声で発言したり、不完全ながらも文字で表したりする機会を多く持ち、話すこと書くことの抵抗をなくしていく。また、その素地となる呼吸法の改善も続けて図っていく。

3. 指導の実際

(1) 生活単元学習での取り組み

遊び的労働を中心とする生活単元学習は、本児にとって、得意とする道具を使用しながら、ダイナミックな活動ができ、友達との中心となって生き生きと活躍できる格好の学習の場である。

そこで、本児に、リーダーとして活躍する機会を多くもたせ、自信を持って表現できる力をつけさせたいと考えた。加えて、友達への働きかけや思いやりも持てる姿へと近づけたい。また、自分なりに目標を持ち、他からの指示や賞賛がなくても、黙々と仕事をこなしていく態度も身につけさせたいと願った。このような姿を目指す事は、本児の発達段階から考えても可能な時期だと考えられる。

以下、6月の「野外炊飯」、7月の「臨海学校」、9月の「運動会」での取り組みの様子と本児の様子について述べてみたい。

① 「野外炊飯」の実践

○黙々と頑張る姿につながる事例

◎自己表現する姿につながる事例

題 材	要 因	取 り 組 み の 様 子
◎野外炊飯の計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 去年の経験 ・ 活動の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備物を聞かれ、身振りを加えながら「まき」「マッチ」「タワシ」「はし」と次々にあげていく。去年の焼きそばを意識して「フライパン」「鉄板」もあげる。
○エプロンを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力で仕上げようとする意欲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一针ずつすくって縫う。布の糸目ののばしに苦労しているが、左手も使って顔を布にくっつけるようにして頑張る。
・ 焼きそば作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある物を使っての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なべで麺をいため始めると、フライ返しで進んで混ぜ、麺をつまんで味見をする。なべを降ろす時、新聞紙をたたんで取っ手をつかもうとするが、まだ熱いので、木を取っ手にして運ぶ。
・ 椅子作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的に切る工夫 ・ 友達との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子用の板を左手で押さえ、右手で切り進める。椅子の足は、万力で自分で木をはさみ、切る。疲れてきて片手で切っていたが、友達がどんどん切っていくのを見て、頑張り直す。
○野外炊飯に行こう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験を生かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かまどの位置が決まると、大きな石をどンドン運び、かまどをあとという間につくり上げてしまった。火の当番も責任をもってやり遂げた。
◎野外炊飯の反省をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を探して書くこととする意欲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張った事や楽しかった事を書く作業に入ると、しおりから言葉を探して転記したり、先生の指導を受けたりして書き上げる。

この単元は、炊飯、木工等本児が得意とする活動が多く、随所に活躍する場や工夫する様子が見られた。飯盒での御飯炊き、かまどづくり等、去年の経験を生かし自信を持って行動していた。

② 「臨海学校」の実践

題 材	要 因	取 り 組 み の 様 子
◎出し物を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「田口賞」への意欲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 七夕のお話、登場人物、配役決定等の話し合いに意欲的に手を挙げて発言。自分はウ子に勤められて「牛」の役を希望する。
○砂でつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の道具使用 ・ 自分なりの目的 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「くじらをつくる」と意欲的。さっさと作業に取りかかり、スコップで砂を集め、スコップの裏で砂山を叩いてかためていった。
◎出し物の練習をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本番を楽しみにする気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「七夕さま」をみんなに見てもらうのが楽しみな様子。いつもは歌に対して引っ込み思案になるが、本時は大きな声をはり上げて歌えた。
○まき作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的意識 ・ 活躍できる喜び ・ バック音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「移動して下さい」の合図で一番に立ち上がり、切り始める。ひたすら切り続け、力んで顔が赤くなる。音楽に合わせ、ものすごい速さでのこぎりをはく。足で踏んで折れないと手でねじってもぎとる。
○臨海学校に行こう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりの見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプファイヤーの準備を進んで手伝う。宿舎から海岸まで準備物を運んだ後走って折り返しまた運ぶというように、作業を繰り返す。

この単元には、からだを思う存分動かせる活動が多く、本児は、ダイナミックな活動を十分に楽しみ充実感を味わう事ができた。そして、賞賛されなくても黙々とまきづくりに励む姿や、あまりよい役とは思われない牛の役を受け入れ懸命に練習する姿も見られた。

目標に向かって、自分なりに精一杯努力する姿に、一步近づいたように感じた。



③ 「運動会」にみられためざす姿

「野外炊飯」「臨海学校」終了後、2学期の「運動会」の取り組みの中で、本児に次のような向上の様子が認められた。

- 全校縦割りチームの、緑チームの応援で、太鼓を受け持った。練習を重ねる毎に、「フレーフレーみどり」と大きな声で言いながら、太鼓もリズムよくたたけるようになった。連合運動会では、応援団長に立候補し、声をはり上げてエールの交換ができるようになった。
- 競技に使うための「まきづくり」では、今までがむしゃらに頑張っていたのに加えて、正確さが出てきた。50cmの棒にそろえて切り、少しでも合わないサイズのまきができる、近くの先生にどうしたらよいかたずねる、といった姿勢も見られた。1時間あれば、いつも十数本、黙々と取り組めた。
- 友達の世話をする場面が多く見られた。入場行進で小学部の子を気づかいながら手をひいたり、組体操で隣りの子に教えたりしていた。また、種目練習では、いつも自分のチームで遅くなる友達を誘いにいき、連れて集合した。
- 応援の看板づくりで、ライオンの絵を、さし絵を見ながら自分の力で最後まで形づくったり、はちまきを根気よく5本ずつの束にしてから、本数を数えたりする事ができた。
- 100m、リレー、組体操等の種目練習に、力いっぱい取り組んでいた。

(2) 養護・訓練での取り組み

昨年引き続き、筋力を高める運動、呼吸法の訓練に取り組んでいる。筋肉の未分化が著しく腰が安定しにくい本児ではあるが、訓練により、かなりふんばりがきくようになってきた。また、息を腹部に吸い入れて止め、吐く時はしっかり吐くという繰り返しにより、呼吸法も理解できつつあるところである。

(3) ことばの力をつける取り組み

少しでもはっきりした発音を目指して、一日の生活リズムにそって話す場を多く設けるよう心がけている。一音ずつゆっくりいわせればかなりはっきり発音できるようになった。また、文字言語の習得を目指して、ひらがなの学習にも取り組んできた。4月に比べると、46文字中、書字力は27文字から35文字に伸びており、日記も自力で文字を探しながら書こうとする姿勢が見られるようになった。

る	ま	今
き	す	日
か	は	
し	ほ	
ま	く	あ
す	の	あ
	ふ	や
	ら	に
	せい	
	下	き

4. 考察と今後の課題

本児にとってことばの力をつける事は、自分を表現する機会を増やし、大きな自信を生む事につながる。今後粘り強く取り組んでいきたい。出し物での牛の役、運動会での応援団長等、積極的に自己表現しようとする姿が見られたのはうれしい事である。しかし、大勢の人の前では、気後れしてしまい、練習の成果が十分に発揮できない事が多く、まだまだ本当の力にはなり得ていないと感じる。朝の会で日記よりの日記の発表、学習時の発言、先生や友達への話しかけ等、積極的で声も大きくなってきているので、今後もあせらず日頃の生活の中で培っていきたいと考える。また、言語面での落ち込みを生活力による自信で補ってきた本児なので、これからも、様々な成功経験を積み自信を持たせたい。